

## チェーンストア業界の「低炭素社会実行計画」

		計画の内容
1. 国内の企業活動における2020年の削減目標	目標水準	店舗におけるエネルギー消費原単位（床面積×営業時間当たりのエネルギー使用量）を、目標年度（2020年度）において基準年度（1996年度）比15%削減する。
	目標設定の根拠	<p>当協会では、会員企業数の増減や新規出店および閉店等により店舗数の増減があるため、全体でのエネルギー消費量を制限することよりも生産量当たりのエネルギー消費量を削減することが適切であると考えます。</p> <p>生産量の指標としては年間販売高、床面積、営業時間があるが、年間販売額は経済的な要因による変動が大きいため、延べ床面積×年間営業時間とすることとした。</p> <p>また、目標数値については、2011年度のエネルギー消費原単位は0.092（1996年度比22%削減）と大幅な減少が見られるものの、2011年度の実績は電力使用制限令のもと、各会員企業が大幅な節電対策を行っているため、数値を通常と同じ評価をすることが難しいこと、その後の節電の定着の状況が見えないことを考慮し、2006年度から2010年度までのエネルギー消費原単位の平均値（0.1088）に対して、2013年度以降、2020年度まで省エネ法に基づく毎年1%ずつの省エネルギー対策を8年間実施した場合、エネルギー消費原単位は0.100となる。このエネルギー消費原単位の値は1996年度を基準年度とした場合に15%の削減率に相当するため、当協会においては店舗におけるエネルギー消費原単位を、目標年度（2020年度）において基準年度（1996年度）比15%削減することを目標として設定した。</p>
2. 低炭素製品・サービス等による他部門での削減		ばら売り・量り売りやトレイなしの食品、容器包装を極力減らした商品、詰め替え商品、LED電球等の販売を通じて環境負荷の低減に向けてお客様と一緒に取り組んでいく。
3. 国際貢献の推進（海外での削減の貢献）		特になし
4. 革新的技術の開発・導入		<ul style="list-style-type: none"> <li>・LEDスポットライトなど省エネ機器の導入、入れ替え</li> <li>・スマートメーター等をはじめとする省エネのための制御機器の導入</li> <li>・新しい技術開発に対する先進事例の共有化、情報交換等</li> </ul>
5. その他の取組・特記事項		

# チェーンストア業界の「低炭素社会実行計画」

平成 25 年 12 月 2 日  
日本チェーンストア協会

## 1. 業界団体の削減目標、今後の見通し等

### (1) 業界の概要及びカバー率

#### ● 業界の概要

#### ● 業界全体に占めるカバー率

業界全体の規模		業界団体の規模		低炭社会実行計画参加規模	
企業数	社	団体加盟企業数	社	計画参加企業数	社 (%)
市場規模	売上高 億円	団体企業売上規模	売上高 億円	参加企業売上規模	売上高 億円 (%)

\* カバー率については、参加企業数●社/△社や、生産高・量のカバー率■%などを記載。

\* 合わせて参加規模・カバー率を向上させるための方策も記載。

#### ● 自主行動計画の対象範囲との差異

## (2) 削減目標と今後の見通し

	基準年度 (96年度)	現状 (2012年度)	2013年度	2014年度	2015年度	2020年度	2030年度
対策評価指標 (エネルギー消費原単位) (kWh/m <sup>2</sup> ・h)	0.118					0.100 (目標値)	
CO2排出削減量 (万t-CO2)							
省エネ効果 (例：導入1単位当たり)							
年間省エネ効果 (単位)							
対策効果の算出時に見込んだ前提							

\* CO2 排出量及び省エネ効果は可能な範囲で記入。

\* CO2 算定の際の電力排出係数は、〇〇kg-CO2/kWh を用いた。

## (3) 対策評価指標（目標指標）について

- 対策評価指標（目標指標）を選択した理由

(4) 目標値について

- 目標値が自ら行いうる最大限の水準であることの根拠（実施する対策内容とその効果等の根拠）

BATリスト	削減見込み量	算定根拠 (左記の設備機器がBATである根拠を含む)

(5) 2020年度の想定排出量、エネルギー使用量等について

- 排出量、エネルギー使用量関係

基準年度実績 ( 年度)	2012年度実績	2020年度 (2012年時点における想定・見通し)
(万t-CO2)	(万t-CO2)	(万t-CO2)
(原油換算kl)	(原油換算kl)	(原油換算kl)
(kWh)	(kWh)	(kWh)

\* CO2 排出量は可能な範囲で記入。ただし、現状（2012年度）のCO2排出量については、必ず記載すること。

\* CO2 算定の際の電力排出係数は、〇〇kg-CO2/kWh を用いた。

(6) 活動量関係について

● 活動量指標

● 上記指標を選択した理由

● 活動量、CO2 原単位

	基準年度実績 ( 年度)	2012年度実績	2020年度 (2012年時点における 想定・見通し)
活動量 (単位)			
CO2原単位/ エネルギー原単位 (万t-CO2/万トン)			

\* 活動量は、「〇〇戦略」における前提に基づいて算定。

(7) 目標達成の確実性を担保する手段

## 2. 低炭素製品・サービス等による他部門での削減

### (1) 他部門での排出削減に資する製品・サービス等

低炭素製品・サービス等	当該製品等の特徴、従来品等との差異など

### (2) 低炭素製品等による 2020 年度時点での CO2 排出削減見込み

低炭素製品・サービス等	削減見込み量	算定根拠、データの出所など

### 3. 国際貢献の推進（海外での削減の貢献）

#### （1）海外での排出削減に資する技術等

技術等	当該技術等の特徴、従来技術等との差異など

#### （2）技術移転等による 2020 年度時点での CO2 排出削減見込み

技術等	削減見込み量	算定根拠、データの出所など

#### 4. 革新的技術等の開発・導入

##### (1) CO2 排出量の大幅削減につながる革新的技術の概要

革新的技術	投資予定額	技術の概要

##### (2) 開発・導入・普及に向けた今後のスケジュール

##### (3) 技術普及・導入した場合の年間 CO2 排出削減効果

革新的技術	削減見込み量	算定根拠

5. その他の取組・特記事項

[Empty dashed rectangular box for additional information]

[Large empty rounded rectangular box for additional information]

(以 上)